

研究集会「労働時間の歴史：自由労働と強制労働（日本とフランス）」

2007年6月10日（日） 10時～18時

日仏会館 601 会議室（日仏会館 6 階）

日仏同時通訳あり、入場自由・無料

10時-10時30分

ジル・ポステル＝ヴィネ（フランス国立農学研究所）、ジェローム・ブルデュー（フランス国立農学研究所）

「労働時間はどのように推移するか：19世紀末フランスの事例」

10時30分-11時

鈴木 淳（東京大学）

「2つの時刻と3つの労働時間、19世紀後半」

11時-11時20分：討論

11時20分-11時40分：休憩

11時40分-12時10分

ピエール・ヴェルニユス（リヨン第2大学）

「労働者の生は労働に負う」：経済的依存の制約に直面するリヨンの製糸業従事者：交渉、対決あるいはあきらめ？」

12時10分-12時40分

榎 一江（東京大学）

「近代製糸業と労働時間」

12時40分-13時：討論

13時-14時30分：昼食休憩

14時30分-15時

西坂 靖（専修大学）

「住み込み店員に対する欠勤時間管理と処罰：江戸時代の大商家・三井越後屋の事例」

15時-15時30分

アラン・ドゥエルブ（フランス国立社会科学高等研究院）

「持つか持たざるか：19世紀フランスにおける“労働者手帳”」

15時30分-15時50分：討論

15時50分-16時10分：休憩

16時10分-16時40分

アレサンドロ・スタンツィアーニ（フランス国立科学研究センター）

「自由労働と強制労働：曖昧な境界？：18世紀初頭から19世紀半ばにかけてのロシア-ヨーロッパにおける経済知識の流布」

16時40分-17時10分

千本 暁子（阪南大学）

「1911年工場法の労働時間規制」

17時10分-17時30分：討論

17時30分-18時：総括

司会：ジル・ポステル＝ヴィネ [午前]、廣田 功（新潟大学） [午後]

主催：日仏会館フランス事務所

協力：フランス国立科学研究センター



問い合わせ：日仏会館フランス事務所

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25

tel: 03-5421-7641 fax: 03-5421-7651